

薫

第6号

発行所

大阪市東住吉区山坂5丁目
11番21号 TEL 06-699-8731
FAX 06-699-8734

社会福祉法人
愛徳福祉会

皆様の投稿を
お待ちしております

新年を迎えるに

あたって

理事長 梶浦一郎

本年一月四日午前九時より大訓練室に職員一同を集め、梶浦一郎理事長より新年にあたっての訓話が行われた。(要旨は次の通り)

みなさん、あけましておめでと
うございます。
年末年始の休みも、始まる時
は非常に楽しみにするんですが、
休みも最後の一日位前になります
と、もう終わりかとかっかりし
ます。これは十日あっても、十五日あ

でも人間の欲というのはきりがな
いわけですし、いよいよになりま
すと、少なかつたなあという気が
するものです。
いずれにしても、今日この
ようにみなさんが元気に明るく集
まることのできるということは、

年頭のあいさつをする梶浦理事長



勿論いろいろ問題はありますが、
これはやはりこの日本の社会がい
ろんな意味でバランスのとれた平
和な国だということをつくづく感
じられることと思います。

この一月十五日には中東での湾
岸危機の関係から本当に何が起
るか判らない状態です。そのよう
な非常に不気味な要素を含んでお
りますし、それは何か世界の果て
で起っているようですが、しかし、
そういうことが直接我々に影響し
てくるということはみなさんこの

二、三年で実感されたらどうと思
います。ですから、私たちはそう
いうことを注意深く見つけながら
生活し、そして今後のいろんな運
営を考えていきたいと思います。

今日はそんなに突飛な話もでき
ませんが、一寸気がついたことを
お話ししたいと思います。

昨年は、ご承知のように創立二
十周年で、五月に盛大に二十周年
記念行事を行うことができました。
いろんなお客さんをお招きして
成功裏に終わったわけですが、こ
れは以前にここを設立した愛徳姉妹
会の方、それから諸先輩の方々の
努力によって、この二十年が無事
に過ぎてきたということであり、
ここで改めて感謝申し上げますと
思います。

一口に二十年といいますが、昭
和四十五年に私たちは、脳性麻痺

の治療は0歳からというスローガ
ンのもとに始めました。その時に
0歳で診た子供が二十歳になって
います。十歳頃に診た子はもう三
十いくつになっております。私が
外来で診察をして以来、そういう
人たちが多くなくなってきていま
す。

今診ている半分位は大人なんです。
これは肢体不自由児施設という
と一寸おかしくなるんですが、し
かし、本当に小さいときから診
ていた人たちを、私がこの施設は
もう法律的に違うから我々は関係
ないというようなことは勿論云え
ないわけですし、どのようにして
フォローしていったらいいか、そ
の辺は私にもまだ結論がでており
ません。

今は、さしあたって年に一回と
か二回とか診療をしている状態
ですが、大人になりますと私たち
の届かないいろいろな複雑な問題
が起ってきます。それ以外に腰痛
、肩凝りとか、いろんな狭い意味
での問題が普通の人たち以上に起
てきます。それを私たちは、今診
察だけをしている状態なんです
が、これらは今後真剣に考えてい
くべき問題だと思っています。

こういうふうな社会のニーズが
そういう方向に向いていく、つま
り障害児もほとんど大人になっ
てくる、それから普通の人もい
ろんな障害を持ったままのお年寄
りが長生きします、こういうよう
な社会情勢、これもまた一つ考え
ていかなければならない大きな要
因だろうと思っています。

そういうことで、二十一年目の
今年はどういうようなことを踏ま
えて、私たちがどういうことを考

えていったらいいかということ
を少しお話をしてみたいと思いま
す。脳性麻痺の早期治療というこ
とを一番最初に始めたわけですが、
これはやはり日本での発祥の地だ
という輝かしい歴史であります。

こういう二十年という誇るべき
実績、あるいは歴史というのが今
後の私たちの進むべき道に非常に
プラスになると思っています。それ
はもうお判りだと思っています。

しかし、一方でマイナス要因
になることもあるのではないかと
いうことで常々心に引っかかるこ
とがあります。

どういふことかと言いますと、
私たちが最初ここを始めた時は私
たちには何も無かったのです。実
績も勿論ありません。それから今
のような強力なスタッフもない、
社会からの期待というものもな
かったんです。だから私たちは非
常に自由だったわけなんです。

その当時非常に多くの施設があ
りました。七十五あったんですが、
その施設は大体がご存知のように
ポリオの対策だったんです。ポリ
オあるいは先天股脱の陳旧例、そ
ういふものを対象とした施設だっ
たんです。その施設の人たちは
それを長く運営し、非常に輝かし
い伝統をもってリハビリテー
ションの発祥としての歴史をもっ
ていたんですが、かえてそれが
マイナスになって彼等のもってい
た常識というものから比べて、脳
性麻痺の0歳から、しかも一〇〇
%脳性麻痺という子供を対象とし
ようというような考え方、それは
その人たちにとっては極めて非常
識な考え方だったと思うんです。

ですから、ニーズがそういうよ

うに変わってきているにもかかわ
らず、常識からなかなか抜けきれ
なかった、転換しきれなかった。そ
して肢体不自由児施設を受難の年
が始まったというふうな言い方を
されて肢体不自由児施設の運営が
本当に行き詰まっていたんです。

ところが、私たちには幸か不幸
かそういう実績、歴史が全くな
かった、非常に自由に発想ができた
ので0歳から治療ということ
で、瞬く間にそれを実行に移すこと
ができました。それがその当時のニ
ーズに非常に合ったものだから、
急速に日本中にその影響力を及ぼ
すことができたわけなんです。

だから、それ以前の常識とい
うのは、ある意味では固定観念に
なるわけなんです。非常に邪魔に
なることがあるんです。従って、今
後我々が考える時に、先程申し
ましたように私たちのこの二十年の
歴史が悪い意味での固定観念とし
て邪魔にならないかどうか、そう
いうことを本当に注意しなければ
ならないと思います。

こういう常識にとらわれるとい
うことが、一つの物事の発展に非
常に邪魔になるということなんです。

その例えとしまして、ご存知か
も判りませんが、有名な話で、川
を渡るというのには上に橋をつける
か、あるいは舟で渡るかというの
が常識ですが、それをある人が川
の底を渡ろうと言いだした。そん
な非常識なことはといて皆笑っ
たんですが、チームズ河の底を無
事に渡ったわけですね、それが地
下鉄の始まりです。その当時は電
車ではありません。汽車ですから
本当に非常識だと思えます。

(二面につづく)

ロンドンの地下鉄には排煙装置がたくさんついている。しかし、その常識が破られると、とたんにパリとかニューヨークに瞬く間に地下鉄ができた。つまり、川の底を渡るという考えも及ばなかったことを始めていた人は非常に大変だった、その常識を覆すことが大変だったと思うんです。

だから、この園の歴史が輝かしいものであったがために、その固

固定観念に囚われず 新しい発想を

た。それで私は何といえますか、一瞬ドキッとしたような気がしました。それで、早速装具専門の装具士にその話をしますと、専門家の常識として靴の底をボタンで付けたり外したりするようなことはできないと一笑に付されました。私は非常に腹が立ちました。折角そのいいアイデアあるいは使う側からは切実だったと思うんです。だから、できるかできないかは判らないけど、とにかくそれを一生懸命に

いい言葉に聞こえますね、常識的なとか、常識に合うようなこととか、非常に正しいように聞こえますが、しかし裏を返しますと、それが新しい発想の妨げになるといふことがしばしばあると思います。これらのことは、何か新しい方法を模索するというところで昨年一昨年もお話しましたが、こういうことは園の基本に関わることでそう簡単にできることではありませんので、少し時間をかけないといけないだろうと思います。

しかし、もうそろそろ今年ぐらいつい何らかの形を作らないといけないと思いますので、今後みなさんの叡知を結集して方針を樹てていきたいと思っております。

定観念に縛られてマイナスにならないように気をつけなければならぬというふうな考えです。

しかし、先輩たちが築いてきた社会的な信用あるいはその技術、それから私たちの作り上げてきたこの大阪府下及び近畿一円にわたるネットワーク、そしてここが医療機関であるという特性、そういうものを結集して二十一年目の歩みというものをこれからいろいろと模索していきたい。今年こそ何か作ってみたいというふうな考えております。

懸命になって試みる姿勢が必要だと思つたんですが、その装具上さんはそんなあはなことできませんというので済ましたんです。これは、今いきましたように常識ですね、いわゆる専門家としての常識、これはある意味では非常に思いついたことだろうと思うんです。それを日常使つて切実に苦労しているお母さんにとっては、いろんなことを考えただろうと思つて、さういふことはできないんだらうかと切実に話をしてこられたんですけど、だからさういふ発想が常識にとらわれない、本当にその時は非常識だと思われるようなことですが大切な内容が含まれているのではないかと思いました。だから、このように本当に身近なことで我々はもつと考えていく必要があるのではないかと、さういふふうな考えております。

ですから、今後さういふ今までの固定観念、常識というところ非常に

全国花いっぱいコンクール中央審査

が現実をそこまでできております。ですから、私たちも今後何かを考えていかなければいけないではないかというところを改めて申しておきたいと思つています。

お正月早々、あまりいい話ではありませんのでこれぐらいいにしておきます。

みなさん、今年も本当にいい年であつて、楽しい働きやすい雰囲気でありたいと思つていますので宜しくお願いいたします。

どうもありがとうございました。

全国花いっぱいコンクールの中央審査が十一月東京で行われました。

職場・地域の部で東住吉地域振興会山五東町会が毎日新聞社賞に輝き日頃の努力が実つての受賞で関係の方々は非常に喜んでおられます。

二年連続の全国入賞となりました私たちの山五東町会は、会員の方々が丹精込めたパンジーやプリムラ、ノースポールの色鮮やかな草花が町中を明るくしています。

花の万博に協賛したのを機に、花いっぱい運動に地域ぐるみで取り組む子供たちも一緒に花づくりを流した結果、今ではプランターが三〇〇個、外壁にか



施設整備報告

平成2年1月から12月までの本園・分園で実施した施設の整備は次のとおり。

本園	
△H2・2 中庭人工芝補修工事	△H2・5 厨房用トイレ下水管
△H2・3 表門園名標板新設	△H2・4 OT室改造のため電源工事
3階OT室新設のため改造工事と調理設備の設置	訓練室正面扉枠工事

分園	
△H2・6 業務用洗濯機ドレン部取替工事	△H2・10 作業療法室おもちゃ棚改良工事
△H2・7 玄関自動扉バルサチススイッチ取替工事	△H2・12 旧館冷房設置工事と電気配線工事
北病棟詰所戸棚取替工事	△壁クロス張替工事
△H2・8 訓練部応接室設置のため検査室の一部間仕切り工事	△カーテン補修
△H2・10 作業療法室おもちゃ棚改良工事	△駐車場ライン引き
△H2・12 旧館冷房設置工事と電気配線工事	△観察室流し台改良
	△1階駐車場新塗装
	△屋上鉄骨及び機器配管廻り新塗装
	△屋上運動場手摺他新塗装

取替工事
小学校6教室電源増設工事
厨房用給水栓取替工事

園内研修会

平成二年度の職員研修会が本園・分園にわかれて次の通り開催されました。

今回の八月の研修会では、より

多くの職員に発言の機会を与えるよう、また、より充実した討議がなされるように趣向をこらし、小グループ(訓練・北病棟・二階病棟・通園、あさしお園)に分かれて、何れかのグループに職員は必ず参加して討議が積極的に行われるようにしました。そのあと、全グループが訓練室に集まり各グループの代表の報告がありそれに対する質疑応答が行われました。



第十五回

平成二年八月十一日午前九時～十二時三十分

〈演題〉

- ▲痙直型四肢麻痺児の異常発達について 訓練部 藤原安紀子・西脇美佐子・板谷昭恵・鶴田ゆかり・茂原直子・豊端弥生
- ▲幼児期のS.Q児ADL自立を考える 看護部北病棟 岸川容子・扇由香・三宅吉直・藤原照美
- ▲痙直型四肢麻痺児の筋緊張が亢進している時の対処の仕方について 看護部二階病棟 横山美智子・上野京子・長谷川智美
- ▲痙直型四肢麻痺児の日常動作を行ないやすくするために 通園部 二好愛恵
- ▲痙直型四肢麻痺児の異常発達に対する通園施設の役割 あさしお園 寺村泰子・寺沢年代・皆川かほり・吉田くすほみ・瓦井義広

《ゆうなぎ園》

▲聴覚障害児の初期の言語獲得の特徴について 一歳児の高度難聴児(男児)の事例より 原順子

▲高度難聴児の言語指導からみた補聴器のfitting 補聴器の実耳測定を用いてfittingを考える 広瀬直礼

▲高度難聴児の言語指導 一独自の口形カードを使った語彙の拡充 大垣奈々恵・真岸昭子

学会発表

《診療部》

- ▲平成2年5月11日～12日 第74回中部日本整形形外科災害外科学会(名古屋市) 演題:脳性麻痺の股関節亜脱臼について 渋谷 亮一
- ▲平成2年5月25日～26日 第28回日本小児歯科学会 演題:精神発達遅滞児・者の口腔衛生指導、第2報 1 省時の生活が齶蝕活動に及ぼす影響 林 昌司
- ▲平成2年6月28日～30日 第27回日本リハビリテーション医学会(福岡市) 演題:脳性麻痺児股関節脱臼に対する転子間内反減捻骨切術の検討 河野 護一
- ▲平成2年10月17日～18日 第75回中部日本整形形外科災害外科学会(高知市) 演題:脳性麻痺児の上肢手術 一掌屈変形について 佐々木 哲
- 演題:脳性麻痺児の股関節亜脱臼に対する大腿骨骨切りについて

- ▲平成2年11月16日～17日 第1回日本小児整形形外科学会(東京都) 演題:日波による痙性の評価 一脳性麻痺児の重症度と日波回復曲線との関係 佐々木 哲
- ▲平成2年11月23日～24日 第7回日本障害者歯科学会(東京都) 演題:精神薄弱児・者居住施設における歯磨き指導の実際 第5報 林 昌司 中原亜紀子 徳山 道枝

《訓練部》

- ▲平成2年10月18日 日本理学療法士協会全国研修会(広島市) セミナー:成長過程における理学療法の専門性(理学療法士自身の立場から) 今川 忠男
- ▲平成2年10月18日～19日 第35回全国肢体不自由児療育研究大会(高岡市) 演題:通園施設における母親に対する日常生活指導表の実践 板谷 昭恵

《ゆうなぎ園》

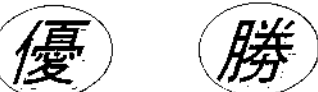
- ▲平成2年7月25日～26日 第38回盲ろうあ難聴(幼)児施設全国大会(滋賀県) 演題:母親指導の内容と実践 一2才児クラスの指導を通して 河本 環

当園で開催した講習会

講習会

- ▲発達障害児に対するブレ・スピ 一チの評価と治療の実際 2・1・5～1・14 講師:今川忠男
- ▲ポバース・コース 2・1・16～3・15 講師:今川忠男・西脇美佐子
- ▲発達障害児に対するブレ・スピ 一チの評価と治療の実際 2・6・1～6・30 講師:今川忠男
- ▲脳性麻痺児療育多職種講習会 2・7・21～7・22 2・7・28～7・29 2・8・25～8・26 講師:今川忠男・西脇美佐子
- ▲日本理学療法士協会長期講習会(脳性麻痺児の評価と理学療法の実際) 2・7・23～7・28 講師:今川忠男・西脇美佐子
- ▲日本作業療法士協会小児部門講習会(小児科領域における作業療法の実際:日常生活指導を中心として) 2・8・27～9・1 講師:茂原直子・辻薫・岸本 光夫

大阪三施設親善



ソフトボール大会

平成2年9月8日(土)午後1時から大阪市長池運動場にて第14回大会が当園の当番で行われた。試合は、なかなかうちにも勝負への執念が随所に表われ各施設とも必死に戦っていたが、当園が持ち前のねばりとパワーを発揮して、2年連続7回目の優勝を飾った。結果は次のとおり。



- 大阪 21-15 大手前
- 南大阪 8-2 大手前
- 南大阪 15-9 大阪

創立20周年記念式典 挙行さる

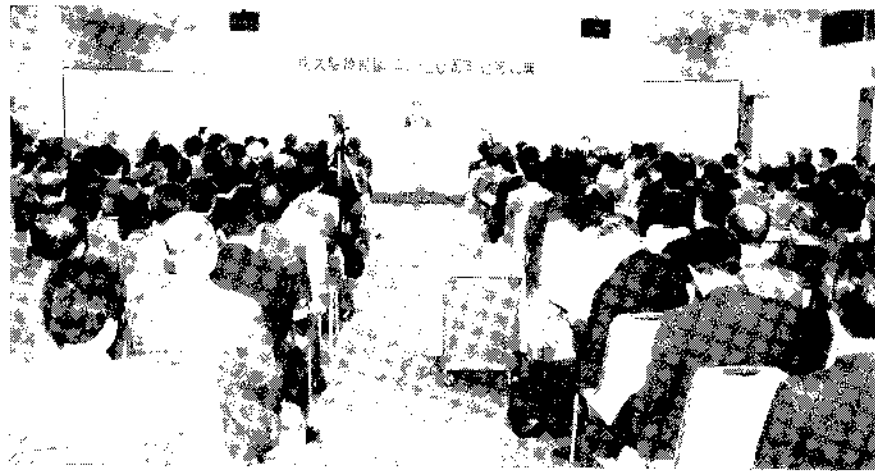
本園

南大阪療育園(聖母整肢園を含む)は創立20周年を記念して、平成二年五月一日午前十一時から天王寺区の「東映ホテル」において関係者約百五十人を招待して盛大に記念式典と祝賀会を挙行政した。

記念式典は、まず沢常務理事のことはで開式、梶浦理事長のあいさつに続いて、大下園長がスライドによる20年のあゆみを詳しく報告したあと、感謝状の贈呈などがあって西尾正也大阪市長(大浦助役代読)、坂口亮全国肢体不自由

児施設運営協議会長、野上福秀東住吉区選出府市会議員団代表、小野啓郎大阪大学医学部教授、神田巳代子社会福祉法人愛徳姉妹会理事長からそれぞれ祝辞を頂いたあとに、祝電の一部が披露された。最後に小倉理事の開式のことばで式典を終った。

会場を移して第二部の祝賀会に入り、占閑理事のあいさつで始め、桑山信助清水基金常務理事、小笠原文七郎東住吉区長の祝辞を頂き金戸述児福連会長の乾杯のご発声



式典であいさつする梶浦理事長

のあと時間の経つのも忘れぬくらい和気あいあいとした懇親が繰り広げられた。なお20周年記念事業の一つとして記念誌(業績集)を発行する予定です。感謝状を贈呈した方々は次の通りです。
東住吉区南田辺地区民生委員児童委員協議会、東住吉区地域振興会山五東町会、大阪東住吉ライオンズクラブ、西日本旅客鉄道株式会社鶴ヶ丘駅高橋澄、川口方子。
(敬称略)
また、この式典に先立ち四月二十八日午後二時から同じ「東映ホテル」で職員を対象に記念祝賀会を催し、十年勤続表彰論文表彰を行い感謝状、記念品を贈呈した。

20周年記念式典

創立20周年記念に際し多大の芳志を賜りました皆様は次の通りです。ありがとうございました。
(敬称略・順不同)

▲大阪市民生局 ▲社会福祉法人清水基金 ▲東住吉区社会福祉協議会副会長清水正夫 ▲東住吉区社会福祉協議会評議員柏原正喜 ▲東住吉



社会福祉法人 愛徳
南大阪療育



梶浦理事長(写真上)と大下園長(写真下)

区社会福祉協議会会計理事山田裕三 ▲大阪市社会福祉協議会 ▲南田辺社会福祉協議会 ▲南田辺民生委員会 ▲岩崎敏子 ▲南田辺民生委員会

戸田敏一 ▲大阪府身体障害者団体協議会会長林春信 ▲大阪府教育委員会 ▲全国肢体不自由児施設運営協議会会長坂口亮 ▲東住吉区長小笠原文七郎 ▲大阪養護教育振興会

重西茂信 ▲サンケイ新聞大阪新聞厚生文化事業団 ▲社会福祉法人愛徳姉妹会 ▲東住吉区民生委員会総務

藤合昭 ▲東住吉区民生委員会副総務胡本豊 ▲東住吉区民生委員会副総務岩本ヒナ子 ▲大阪府理学療法士協会会長西本東彦 ▲南紀療育園

▲大阪府立盲学校 ▲聖ヨゼフ整肢園 ▲藍野医療技術専門学校 ▲聖家族の家 ▲大阪府教育委員会養護教育課長浜田邦男 ▲大阪府教育委員会養護教育課主査三田欣二 ▲大阪

市立平野養護学校 ▲大阪市立光陽養護学校 ▲大阪市立西淀川養護学校 ▲大阪府立岸和田養護学校 ▲大阪府立箕面養護学校 ▲大阪府立茨木養護学校 ▲白鷺病院 ▲国立療養所近畿中央病院附属リハビリテーション学院 ▲新生保育園 ▲社会福

祉法人博愛社 ▲吹田療育園 ▲社会福祉法人今川学園 ▲社会福祉法人愛徳園 ▲医療法人淀井病院 ▲平和寮 ▲行岡保健衛生学園 ▲愛徳整肢園 ▲四恩学園 ▲大阪府立看護短期大学 ▲滋賀県立心身障害児総合療育センター ▲大阪府中央児童相談所 ▲長山代喜代子 ▲大阪市中央児童相談所 ▲東大阪児童相談所長加藤瑞

雄 ▲大阪市立田辺中学校長成富昭義 ▲大阪市立南田辺小学校校長新家啓民 ▲山五東町会長國塚益平 ▲山五西町

会長吉井脩 ▲南田辺連合町会長勢戸信夫 ▲山五東町会婦人部長谷川照子 ▲山五東町会婦人部上井光子 ▲鶴ヶ丘駅助役青石三郎 ▲川口芳子 ▲小倉弘吉 ▲小野啓郎 ▲江部高廣 ▲味岡良平 ▲尾崎喜久男 ▲古閑慶之 ▲種原稔 ▲大久保才一 ▲櫻木清和 ▲青木久一 ▲大橋良三 ▲川村義枝 ▲藤木工務店 ▲藤ラップ ▲旭コムテック ▲大和銀行阿倍野橋支店 ▲天泉三匠薬品 ▲三尾堂 ▲エーメイ ▲日本アイビー ▲南大阪初田商会 ▲三業基準履具 ▲竹谷工業 ▲岩井ニット ▲あびこサキ佐々木正信 ▲阪本理研商會 ▲日本生命保険相互会社 ▲日本生命保険相互会社社野ふじ子 ▲千代田火災海上保険代理店中川正三

20周年記念事業として特にご支援を頂いた団体は次の通りです。
▲大阪市 ▲東住吉区社会福祉協議会 ▲東住吉区民生委員会協議会 ▲南田辺民生委員会 ▲東住吉ライオンズクラブ ▲扇町ライオンズクラブ ▲社会福祉法人清水基金 ▲住之江競艇運営協議会



感謝状を贈った方々

創立20周年記念式典

挨拶

理事長 梶浦 一郎

本日は、連休の真只中のところ多くの方々のご臨席を賜り厚くお礼申し上げます。

二十周年と申ししても、厳密には愛徳姉妹会が設立しました聖母整肢園を引継ぎ、昭和五十七年四月に愛徳福祉会南大阪療育園が発足し、それから八年でござい

ます。しかし、私たちの子どもに対する療育理念、基本的な方針は一貫

しておりますのであえて二十周年の記念式典をさせて頂きました。

先程、常務理事が申しましたように、本日に一朝一夕にしてできたわけではなく、本日ここにお集りの方々を始め、多くの方々の支えがあつてできたのであります。

まず最初に、聖母整肢園の設立に際し大阪市当局の尽力と社会福祉法人愛徳姉妹会、それに故人になられた大阪大学名誉教授の梶原

祝辞

大阪市長 西尾 正也

南大阪療育園が創立二十周年を迎えられましたことを心からお祝いを申し上げますとともに、皆様方には、日頃から大阪市政について格別のご協力をいただき、厚くお礼を申し上げます。

南大阪療育園は、昭和四十五年五月に、身体に障害をもつ子どもたちが快適な環境のもとで適切な療育と訓練を受けることができる肢体不自由児の専門施設として、開設されました。以来、二十年の長きにわたり、広く障害児の療育及び福祉の増進に多大の貢献をしてこられたのであります。これも梶浦理事長をはじめ、関係の皆様方のご尽力の賜と深く敬意を表する次第であります。

昭和五十六年の国際障害者年を契機として、障害者の社会参加が大きな問題として取り上げられておりますが、ハンディキャップをもつ方々が、自らの力によって障害を克服し、社会の一員として様々な分野で活躍されるためには、市民一人ひとりのより一層の理解と協力が必要であります。大阪市においても、障害者福祉を市政の重要な柱として位置付け、各種の施策を積極的に推進しております。

また、現在、鶴見緑地において、「いのち」と「こころ」の万博である国際花と緑の博覧会が開催されておりますが、この花の万博をぜひとも成功させ、二十一世紀に向けて人間主体のまち、世界に貢

三郎先生、整形外科の水野正太郎先生、このお二人の先生がおられなければこういう組織に参加できなかったように思います。

当時、私たちは経営等に対して能力的な問題もあり必ずしも順調にいったわけではなくその時に創立以来現在まで絶大なご援助を頂いております大阪市当局には言葉にいい尽せないほどお世話になっており、改めて感謝申し上げます。

次第であります。そのことは、勿論大阪府、市議会の先生方のご理解の賜物と存じ上げております。

また、医療面におきましては、大阪大学整形外科の小野教授、小児科の岡田教授、麻酔科などのご尽力があつて始めて安心して運営ができたわけでありまして。

あと、失礼ではございますが、お名前だけ申し上げますと、日頃からお世話になっております共同募金、中央競馬財団、馬主協会、清水基金、三菱財団、地域の社会福祉協議会など、多くの方々の物心両面のご協力があることを忘れてはならないと思っております。さて、この二十周年と申しましても、経つてしまえば非常に短く

献するまちの実現をめざしますとともに、障害者の方々が、地域社会で安心して暮らせる町づくりを今後とも積極的に進めてまいりますので、皆様方より一層のご協力をお願い申し上げます。南大阪療育園の今後ますますのご発展と梶浦理事長をはじめ皆様方のご健康、ご活躍を心からお祈り申し上げます。お祝いのことばといたします。

感じますが、その間にはいろいろなことがございました。

実は二十年間引続いてこの施設で働いておりますのは私一人になりました。しかし、辞めていった方々もただ単に園を退職したというのではなく、この園で得た療育の技術、その精神などを日本の各地で発展させてくれております。

例えば、久留米大学整形外科の井上教授、あるいは、最近まで大阪整形外科の助教授で現在国立大阪病院整形外科部長の広島先生、厚生年金病院の山本整形外科部長、ポバース研究会の紀伊会長、そのほか宝塚、姫路、八尾、寝屋川、岸和田、など多くの通園施設へ分散していております。

このように日本の各地に分散しているということは、勿論、乞われていたわけであり、そのことは、私たちの方針が日本中に受け入れられていると確信し心強く思っております。

昭和四十五年に開設した時の合言葉は脳性麻痺の治療はリウチからというものでございました。当時、脳性麻痺の治療と申しますと施設収容主義が主流であり、施設へ収容することを第一の目標にしていたのですが、それをあえて医学的に治療したい、そのためには早期発見、早期治療であるというのが私たちの信念でした。当時、かなり無鉄砲といえる方針であったのですが、日本で第七十六番目、つまりもっとも新しくできた肢体不自由児施設で従来誰もできなかった、0才児の治療をしようとしたのですから当然多くの抵抗があり、また周囲にご迷惑をおかけしたこともありまし

た。しかし、大阪市当局はじめ、本日ご出席頂いております方々、特に現在大阪府保健福祉医療監で当時の母子保健課長の江部先生のご指導、当時の全国肢体不自由児施設運営協議会の故小池会長であります。小池先生は、療育界では新参者の私たちに対し陰に陽に励まして頂きどれほど私たちは心強く仕事ができたか計り知れないものがあります。このように多くの方々のご支援を得まして、徐々に親たちの理解も深まり順調に発展してきたのであります。しかし、その途中において脳性麻痺の93%は治せるということでポイタ法が我が国に導入されてきました。一時はそれにより日本から脳性麻痺がなくなる、ポバース法はもう古いと公言した人達もおられました。しかし、4年、5年、6年と経つうちに私たちは脳性麻痺の子どもたちにはポバース法に優るものはないと確信し、ポバース法に専念することになったのであります。最初のP・Rが非常に強烈だったのでいまだにポイタ法で治るといふふうには誤解している方も一部におられます。冷静に観察してみますとそれは単なる幻想であったと私たちは思っております。しかし、一時的にせよ、このような非常に強力なライバルがあつたことは私たちにとてもいい刺激になり、その技術を一層高め、親の信頼を得てポバース法自体の発展に大いに役立つチャンスだったと思っております。

ついたところで脳卒中のリハを志しました。もともとポバース法は脳卒中のリハから始まっておりますので、是非脳卒中のリハもやりたいと考えたのであります。幸い、医療法人大道会の大道理理事長のお誘いを受け、城東区にポバース記念病院を開設したのであります。現在、脳卒中の方230人と脳性麻痺50人が入院して治療を受けております。この20年の間、毎年ポバース法の普及に努め、現在、受講者は全国で大体600名を越しております。この方々が日本各地に分散され障害者、障害児に対して援助を實踐しております。今後、長寿社会になり、寝たきり老人の問題などが重視されてくるでしょうが、その時に子どもから老人まで、そして、軽症から重症まできめ細かい具体的な手段を持つておりますポバース法、ポバースセラピストにますます有効性が認められてくるのではないかと考えております。世界の趨勢を見ても、今やポバースという個人の名を外し、N・D・T(神経発達学的治療法)という一般名称で呼ばれるようになっております。今後私たちがより一層内容を充実させ、そして果立っていったポバースファミリーの人達とも一緒に障害者・障害児のため頑張っていく所存でございますので今後ともご指導のほどよろしくお願いたします。

一応、脳性麻痺の療育に目途が

《平成2年度社会福祉法人・愛徳福祉会新入職員研修プログラム》

	4月2日(月)	4月3日(火)	4月4日(水)	4月5日(木)	4月6日(金)
9:00	社会福祉法人・愛徳福祉会 新入職員入職式	《所属部署での業務》	措置費体系と医療費の仕組みについて 南大阪療育園 事務部長 丸山 浩一	あさしお園 ・ゆうなぎ園見学 障害児と親子関係について	南大阪療育園のシステムについて 南大阪療育園 診療部長 佐々木 哲 訓練部長 今川 忠男 看護部長 早水 裕子 訓練部理学療法科長 西脇美佐子 通園部通園科長 水野 紀代 診療部MSW主任 中村ヨシ子
10:00	☆辞令交付 ☆常務理事挨拶 ☆園長挨拶 ☆新入職員自己紹介 ☆管理職紹介		新入職員の心得について		
11:00	就業規則の説明 諸手続きについて 南大阪療育園総務課長 谷田 章		社会福祉法人・愛徳福祉会 監事 大久保 才一	あさしお園・ゆうなぎ園 園長 西條 正晴	
12:00	昼食・休憩	昼食・休憩	昼食・休憩	南大阪療育園へ移動	
13:00				昼食・休憩	
14:00	《所属部署での業務》	障害児(者)問題を考える 社会福祉法人・愛徳福祉会 常務理事 澤 賢次	南大阪療育園見学		研修レポート作成
15:00		肢体不自由児に対する医療	社会福祉法人・愛徳福祉会 理事長 梶 浦 一郎	社会人としての基本的な ありかたと心構えについて	《所属部署での業務》
16:00		南大阪療育園 園長 大下 舜治	職業人としての自覚 社会福祉法人・愛徳福祉会 理事 米沢 実	菊ジェフ 代表取締役 北山 卓男氏	
17:00					18:00～懇親会

平成二年度の新入職員二十名を
対象に四月二日から六日まで別掲
のプログラムで研修会が開催され
ました。従来から好評の講義に加

えて、今回から「南大阪療育園の
システムについて」というセミナ
ーを行いました。
これは、診療部、訓練部、看護

新入職員研修会開催
参加

部、通園部のそれぞれの業務内容や役割を紹介して新入職員に理解させるだけでなく、それぞれの部門の関連性を協調して、チームワークの重要性を把握してもらおうという主旨で企画されました。

内容は、一人の子供とその両親が南大阪療育園に紹介されて、その療育サービスを効果的に受けていただく過程をたどって、各部門がそのことによつて、各部門が関わっていくのかという形式でまとめられました。

受講後の研修レポートから、南大阪療育園で行っている「神経発達学的治療アプローチ」を基盤とした療育サービスが、真に子供たちと両親を中心として発展していかなければならないことを、新入職員一同が確認した様子が見えま

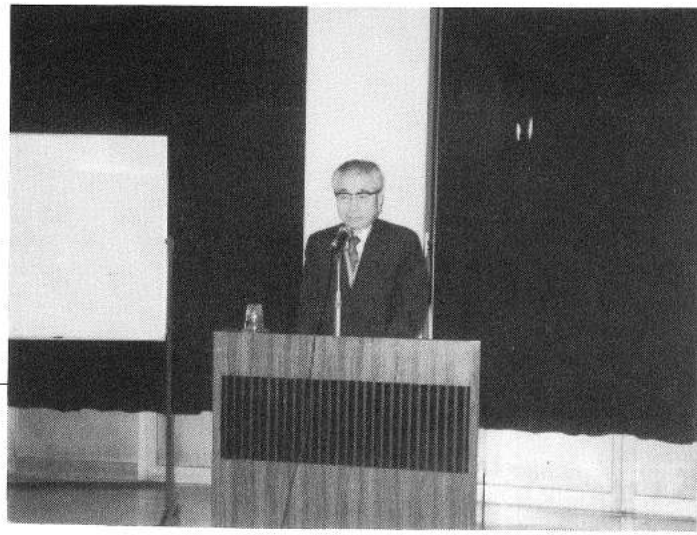


特別講演

「療育に欠くことのできないもの」

大阪市更生療育センター

所長 大浦敏明氏



講演中の大浦敏明氏

「療育とは障害児がより意義深く生きるために、その発達を援助することである。」

最近ある障害児の相談会で、重度の脳性麻痺児の母親から、次のような訴えを聞いた。「私の子どもは担当の理学療法士は、この子は知能や情緒を育てるような訓練は受けない方がよい。緊張が層強くなって、治療が逆に難しくなるから」と言われます。この子は既に3年も訓練を受けていますが、これ以上障害が軽くなると思えません。第一、先生の訓練の時は勿論、私ที่บ้านでやる時も嫌がって泣き叫び、私も辛くなって一

緒になって泣いてしまいます。どこか別の所へ変りたいのですが、言い出しにくくて困っています。一ということである。私自身、療育を冒頭の語の如く理解している。心の発達を否定し、身体機能の発達のみはかることは、伸びゆく生命体としての子どもを

否定することに外ならない。早期療育が全国的にも最も普及している大阪に於いてすら、障害児の療育をこのレベルでしか理解しないセラピストがいることに大きな危機感を覚えたのである。このような考えの底流には、日本が戦後輸入したアメリカ式育児法(旧)と無関係ではないと考える。旧いアメリカ式育児法は、子どもの発達・発育をできるだけの物として理解しようとした時代の産物で、事実生理学、栄養学、内分泌学など大きな進歩を遂げた。その反面たとえば、乳汁は母乳であれ牛乳であれ、その化学組成、物理的性状あるいは熱量が同じであ

れば、栄養価値は同じだとされた。また自立を促進すると称して、ベツドは乳児期の早くから親と隔離され、抱き癖がつくからといって、乳児は泣いても放置された。その結果は、児童虐待、青少年非行の激増につながり、全面的な反省がなされた。米国では既出生直後から始まる全人的な育児法が勧められ、母性行動や母乳哺育の価値が新しく見直されている。一方わが国では米国の後を追うような状態で、児童虐待、家庭内暴力、青少年非行が次第に増加している有様である。児童虐待を取り上げてみよう。児童虐待は大きく2つに分けられる。1つは肉体的に暴力が加えられるもので(battering)臨床症状が出現するので比較的把握され易く、世間の注目を惹くことも多い。もう1つはneglectで、家族特に母親の愛情から離断された状態である。これまた心身ともに大きな傷手を受けるが、身体の表面にはあらわれないので、発見が困難である。併し実際にはbattering以上に数多く潜在すると思われる。後者は母性剥奪症候群と呼ばれ、精神発達特に情緒面の発達が著しく遅れ、時に身体発育も障害されて小

人症となる。われわれは何例かの母性剥奪症候群(maternal deprivation syndrome)を経験しているの、その典型的な1例を紹介する。症例：2才11カ月の男児 主訴：発育不良 現病歴：在胎38週の2卵生双生児で、出生時体重2200gの未熟児、他方は2800gの女児。9才の姉と4才の兄がいる。妊娠末期まで双生児であることが診断されず、出産を控えて2人であることを告知された母親は、生来虚弱でもあり2人同時の育児は不可能と考えた。出産後本児は色黒で毛深く可愛くないと母は感じた。片方の女児は色白でふくやかで愛らしかった。生後3カ月で親は本児を乳児院で養育してもらう事にした。双生児を分けて育てることとはよくないと論され、1才3カ月の時家庭へ引取った。退院時の身長は72cm、体重は8.2kg、頭圍45cm、歩行開始1才3カ月で、在院中はほぼ順調に発育していた(図1)。以後2才11カ月で病

候群(maternal deprivation syndrome)を経験しているの、その典型的な1例を紹介する。症例：2才11カ月の男児 主訴：発育不良 現病歴：在胎38週の2卵生双生児で、出生時体重2200gの未熟児、他方は2800gの女児。9才の姉と4才の兄がいる。妊娠末期まで双生児であることが診断されず、出産を控えて2人であることを告知された母親は、生来虚弱でもあり2人同時の育児は不可能と考えた。出産後本児は色黒で毛深く可愛くないと母は感じた。片方の女児は色白でふくやかで愛らしかった。生後3カ月で親は本児を乳児院で養育してもらう事にした。双生児を分けて育てることとはよくないと論され、1才3カ月の時家庭へ引取った。退院時の身長は72cm、体重は8.2kg、頭圍45cm、歩行開始1才3カ月で、在院中はほぼ順調に発育していた(図1)。以後2才11カ月で病

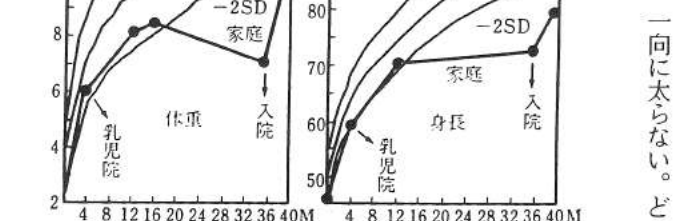


図1 症例の発育曲線を示した。1歳3ヵ月まで乳児院、以後2歳11ヵ月まで家庭で生活した。家庭における1年8ヵ月間、身体的発達が停止している。入院後4ヵ月間のCatch Up Growthがみられる。

院を訪れる迄18カ月の間、身体発育が殆んど停止し、精神発達も遅滞してほとんど意味のある言葉を発しない。家の中では1日中指先をいじったり、耳をもてあそんだり、ぶつぶつ独り言をいって一人で過し、家人とも遊ばない。ただ食物にだけは興味を示し、始終冷蔵庫のそばにいて、驚くほど食べるのだが一向に太らない。どこが悪い所があるのではなからうかという訴えである。 家族歴：父は43才で自営業。本児に厳しく何でも教えようとするが、拒否されるのですぐ怒ってしまふ。母は身体虚弱で、本児がなつかない事に対してどう扱ってよいかわからない。兄と姉は発育良好だが、本児を相手にせず、双生児の女児の方とだけ遊ぶ。この女児の発育は良好で、身長87.5cm、体重11.7kgで、いつも母親にまとわりつき、母を独占しようとする。

現症：初診時身長73cm、体重7.0kg、頭圍45cm、身長は1才相当、体重は6ヵ月相当、頭圍は9ヵ月相当である(図1)。小さくやせ型で、全体に毛深く、眉毛が濃い。全身の皮膚に外傷、火傷、癬痕などを認めない。その他理学的所見、一般血液・尿所見はいずれも正常。 入院後の経過：4ヵ月間入院して観察されたが、その間驚くべき発育・発達の見られなかった(catch up)が見られた。最初は

平成二年五月一日付、勤続十年表彰の対象者は五名です。今回は南大阪療育園創立二十周年記念祝賀会(四月二十八日、天王寺東映ホテル)で梶浦理事長より表彰状(特別休暇十日、商品券五万円)が授与されました。 <受賞者> ▲西尾洋子(北病棟) ▲板谷昭恵、茂原直子(訓練部) ▲山口まゆみ(あさしお園) ▲広瀬宜礼(ゆうなぎ園)

勤続十年表彰

平成二年五月一日付、勤続十年表彰の対象者は五名です。今回は南大阪療育園創立二十周年記念祝賀会(四月二十八日、天王寺東映ホテル)で梶浦理事長より表彰状(特別休暇十日、商品券五万円)が授与されました。

<受賞者>

- ▲西尾洋子(北病棟)
- ▲板谷昭恵、茂原直子(訓練部)
- ▲山口まゆみ(あさしお園)
- ▲広瀬宜礼(ゆうなぎ園)



熱心に講演に聞き入る職員

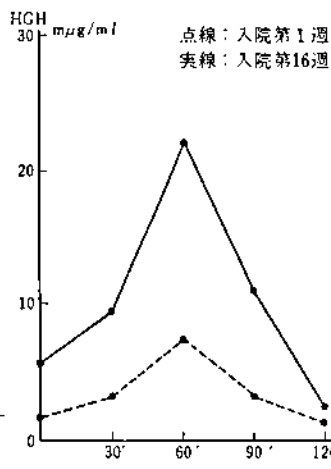
入院第12日目の測定では、各種の副腎皮質ホルモンの異常低値が認められたが第59日目の再検査で大きく上昇した。たとえばT H Eでは21倍の増加であった。これは脳下垂体副腎皮質刺激ホルモン(ACTH)の分泌が亢進した結果と考えられる。

(3) X線検査では手脈骨の骨年齢の成熟が示された。また頭蓋骨のX線像で、入院後冠状縫合、矢状縫合の著しい開大がおこっていることが認められ、頭圍の急速な増大はこの現象より説明された。

以上のように、子どもの身体発育と精神発達には、環境によって大きく左右され、単に食

自閉症もしくは先天性代謝異常が疑われたが、生育歴のくわしい検討から、母性剝奪症候群が疑われた。入院後は与薬は一切行なわずナースのチームによる愛情をこめた看護が行なわれた。行動は次第に活発となり、ナースや他の子どもとも遊ぶようになった。着衣腕衣も自分でしたが、ボタンも時間をかけてはめる。大小便も教えるようになり、一人で食事もするようになった。ことはまだ不明瞭だが、2語、3語文が出るようになった。

身体発育：図1に示す通り、それ迄低下もしくは横這いであった身体諸計測値は急速な増加を示した。入院4カ月間に身長7cm、体重3kg、頭圍5cmが増加した。



医学的検査：(1) 成長ホルモンはアルギニン負荷テストで測定された。入院第1週は異常に低値であったが、第16週に再度行った結果では良好な上昇反応が示された(図2)。(2) 副腎皮質ホルモンは尿の抽出物をガスクロマトグラフで測定された。

図2 入院第1週と第16週のアルギニン負荷試験の結果。第1週は正常な反応を示したが、第16週は反応が著しく低下した。これは成長ホルモンの分泌が低下していることを示している。

物を与えたり、運動させたりするだけで育つのではない。言うまでもなく、肢体不自由児施設は医療機関として、適確な診断の下に高度な技術で身体機能の回復を目指すところに専門性を有し、医療技術の進歩とともに一層その機能を高めなければならない。

園児に寄せられた温かい手紙を心から感謝いたします

- 本園 (寄付金) まごころ会、岸上総治、頼友明、通園部卒園児保護者、南田辺民生委員会、藪田友佑、日進交通、津田たけ子、青木久一、通園部親の会、(株)近鉄百貨店、ローレルバーチ、中谷義秋、大阪市立田辺中学校、広江惇明、大原功
- 〈寄贈品〉 愛媛県青果農業協同組合連合会、増田智子、窪田哲久、樋爪千晴、大阪府玩具人形問屋協同組合連合会、小畑利子、社団法人日本魚肉ソーセージ協会、嶋崎正夫、南加代子、佐伯昭、高木忍彦、大塚正満、小林一也、日進交通、中居久子、近鉄百貨店近畿花王販売、東隣会、大阪演

本園

- ◆ 鶴ヶ丘駅構内ニカ所のバギー置場の清掃を月一回。
- ◆ 南田辺地区民生(児童)委員会協議会婦人部のみなさん。
- ◆ 北病棟・二階病棟のシーツの交換を毎週金曜日に、川口芳子さん。
- ◆ 北病棟のおしぼり巻きのお手伝い。

ボランティアの活動報告

- ◆ 二階病棟の高校生以上の女の子に毎週火曜日の午後、手芸・まくらめ編みの指導にきて下さった川嶋雅恵さん、山本篤江さん。
- ◆ 手芸クラブの指導を毎週金曜日、中庭の花壇の手入れを適宜していただいている北岡教始さん、ゆき子さんご夫妻。
- ◆ 夏休み期間中(七月二十三日、八月二十四日の二日間)に子どもたちの学習、遊び相手に「サマーボランティア」として高校、専門学校、短大、大学生と社会人の方々(三日から一週間程度、実質二十名、延二二名)が参加してくれました。
- ◆ 子ども達に関わることが始めての方も多く、一日二日目ぐらいには「何をしたいのかわからない」との不安な声もでていましたが、最終日近くになると「もっといろんなことで子ども達に関わりたい」との言葉に変わるようになり非常に頼も

あさしお園

- ◆ 夏まつり 南海福祉専門学校一名、浪速短期大学八名、城南女子短期大学五名、大阪キリスト教短期大学二名、常盤会短期大学一名、以上十七名
- ◆ 運動会 南海福祉専門学校三名、職員友人二名、職員家族二名、以上七名
- ◆ もちつき大会 夕風地区・田中地区民生委員、町内会有志十二名
- ◆ 両親教室 延二二名

ゆうなぎ園

- ◆ 三月三日(土) 両親教室 通訳一名
 - ◆ 六月三日(日) 親子の集い 大阪教育大学四名、通訳一名
 - ◆ 九月一日、二日合宿 大阪教育大学五名
 - ◆ 十月二十一日 日曜参観(五・三歳児) 通訳一名
 - ◆ 十一月十一日 日曜参観(二・四歳児) 通訳一名
 - ◆ 十二月二日(日) 発表会 大阪教育大学三名、通訳一名
 - ◆ 十二月十九日(水) クリスマス会 サンタ、スエーデン人一名
- 〈寄贈品〉 あさしお園・ゆうなぎ園平成元年度卒園児父母一同、キリンビール(株)、大阪府玩具人形問屋協同組合連合会、(株)日本魚肉ソーセージ協会、大阪東洋青年クラブ、梅田地下センター商店街振興組合、大阪本場青果卸売協同組合、岡ドライビングスクール、港運送(株)、ボランティア労力銀行

『招待・チャリティー関係』

―大相撲の招待―
三月十二日(月)大阪府肢体不自由者協会の招待で、大相撲大阪場所へ入園中の六年生五名が参加しました。

天井棧の指定の席へ着くまでは大変でしたが、本物の相撲に肌で触れることができ、その熱気に参加者は非常に興奮し楽しいひとときを過ごしました。

―「赤ずきん」人形劇観劇―
六月九日(土)日産福祉基金事業部の文化活動として、人形劇団「おはなしキャラバン」つばさ」の公演が本園訓練室で行われました。

入園児・通園児ともに「赤ずきん」の人形劇を観劇し、そして、園児たちは元気な劇団のお姉さん方とおはなしをし、出演された人形と触れ合い、楽しいひとときを過ごすことができました。

―記念チャリティーオークション―
九月二十二日(土)近鉄百貨店よりローレルパーチショップのオ



―プーンに際し、そのイベントに園児を招待したいとおはなしがあり入園児六名がゲストとしてお招きを受けました。

園児たちは、ローレルパーチきんと昼食を共にし、また、入園児全員にも素敵なマグカップと絵ハガキをお土産に頂きました。

―一足早いクリスマス―

十二月十日(月)ヒルトンホテルのチャリティーとして、ヒルトンホテルの職員の方々が「ホテル



のケーキをホテルの雰囲気できると入園児、通園児たちへ、訓練室にテーブルをセットしクリスマススプレゼントをして下さいました。おいしいケーキを三種類も、そしてオレンジジュースとお腹が一杯になりました。また、サンタさんよりクッキーを一袋ずつプレゼントされ一足早くクリスマスがきた気分になりました。

施設見学のみなさん

本園 (平成2・1~12)

- ▲淀川キリスト教病院七名▲岐阜県立希望が丘学園一名▲熊本リハビリテーション学院一名▲山形県立総合療育訓練センター二名▲石川県立平和町養護学校一名▲川崎市中部地域療育センター四名▲国立大阪病院附属看護助産学校二十四名▲西宮市立西宮養護学校三名
- ▲国立療養所福岡東病院附属リハビリテーション学院五名▲大阪府堺児童相談所二名▲キリスト教保育専門学校三十一名▲大阪市立葎学校二名▲大阪千代田短期大学幼児教育科三十一名▲国立療養所東

名古屋病院附属リハビリテーション学院五名▲大阪市中央児童相談所十二名▲豊橋あゆみ学園一名▲特別養護老人ホームいわき園六名▲八尾市福祉部保育課二十二名▲社会福祉法人楡の会設立準備室一名▲医療法人愛仁会高槻病院二名▲国立身体障害者リハビリテーションセンター一名▲新採用職員二十名

あさしお園

- ▲大阪市立細小学校一名▲奈良県立明日香養護学校六名▲大阪府肢体不自由児協会二十名▲大阪市立放出小学校一名▲大阪府科学教育

ゆうなぎ園

- ▲日本聴力障害新聞取材▲神戸市立難聴幼児通園施設ひばり学園二名▲北難聴教室▲成蹊大学国際政治学学生一名▲大阪府立大学手話サークル十名▲堺市家庭児童相談所二名▲大阪府教育委員会科学教育センター二十名▲南難聴教室▲岐阜ろう学校二名▲大阪市、府下保健婦三十二名▲保護者十九名

臨床実習生・研修生の受入状況

(平成二年一月~十二月)

- 〈訓練部〉
- ◆平成2年4月9日~5月30日 清恵会第二医療専門学校理学療法士科生 1名
 - ◆大阪府立盲学校高等部理学療法科生 1名
 - ◆神戸大学医学技術短期大学部理学療法科生 1名
 - ◆行岡医学技術専門学校リハビリテーション科理学療法学科生 1名
 - ◆平成2年6月4日~7月25日 国立療養所近畿中央病院附属リハビリテーション学院理学療法学科生 1名
 - ◆愛知医療学院理学療法学科生 1名
 - ◆平成2年7月16日~7月28日 島田療育園理学療法士 1名
 - ◆平成2年7月30日~8月4日 八尾市立いちよう学園作業療法士 1名
 - ◆平成2年6月13日~6月15日 滋賀県立心身障害児総合療育センター言語療法士 1名
 - ◆平成2年6月13日~6月15日 藍野医療技術専門学校 1名
 - ◆平成2年6月13日~6月15日 行岡医学技術専門学校リハビリテーション科理学療法学科生 1名
 - ◆平成2年8月20日~9月1日 整形外科中野病院理学療法士 1名
 - ◆平成2年9月3日~10月24日 国立呉病院附属リハビリテーション学院理学療法学科生 1名
 - ◆京都大学医療技術短期大学部理学療法学科生 1名
 - ◆国立仙台病院附属リハビリテーション学院理学療法学科生1名
 - ◆行岡医学技術専門学校リハビリテーション科理学療法学科生 1名
 - ◆平成2年9月4日・9月11日 大阪市立厚生女学院 1名
 - ◆平成2年10月29日~12月22日 国立療養所近畿中央病院附属リハビリテーション学院作業療法学科生 1名
 - ◆平成2年8月20日~9月1日 整形外科中野病院理学療法士 1名
 - ◆平成2年9月3日~10月24日 国立呉病院附属リハビリテーション学院理学療法学科生 1名
 - ◆京都大学医療技術短期大学部理学療法学科生 1名
 - ◆国立仙台病院附属リハビリテーション学院理学療法学科生1名
 - ◆行岡医学技術専門学校リハビリテーション科理学療法学科生 1名
 - ◆平成2年9月4日・9月11日 大阪市立厚生女学院 1名
 - ◆平成2年10月29日~12月22日 国立療養所近畿中央病院附属リハビリテーション学院作業療法学科生 1名
- 〈診療部〉
- ◆平成2年6月11日~7月6日 大阪産業大学附属歯科衛生士学院専門学校 3名
 - ◆平成2年7月30日~8月24日 大阪歯科大学専門学校 3名
 - ◆平成2年9月3日~9月28日 平成2年10月1日~10月31日 平成2年11月1日~12月21日 行岡医学技術専門学校歯科衛生科 延10名
- 〈あさしお園〉
- ◆平成2年7月27日~8月7日 大阪保育学院 2名

園内行事

看護部

今年ほぼば天候にも恵まれ、多くの行事が順調に行われました。とくに十一月の生活発表会では新たにフットライト二台、スポットライト一台の購入にともない、より一層子ども達の笑顔や頑張っている姿が鮮明に映し出されました。

- ・1月6日 もちつき大会
- ・1月18日 お誕生日会
- ・2月1日 お誕生日会(節分)
- ・3月1日 お誕生日会(お雛祭り)
- ・4月19日 お誕生日会
- ・5月24日 お誕生日会
- ・5月26日 春の遠足(長居公園)
- ・6月21日 お誕生日会
- ・7月5日 お誕生日会(七夕祭)
- ・7月28日 長居プール
- ・8月10日 夏祭り
- ・8月30日 お誕生日会



- ・9月20日 お誕生日会
- ・10月6日 運動会
- ・10月20日 秋の遠足(天王寺動物園)
- ・10月25日 お誕生日会
- ・11月15日 お誕生日会
- ・12月15日 生活発表会
- ・12月21日 お誕生日会(クリスマス)

通園部

- ・1月下旬 クラス参観・懇談
- ・2月初旬 個人懇談
- ・2月中旬 新入園児面接
- ・3月23日 卒園式
- ・4月2日 説明会
- ・4月3日 入園式
- ・5月29日 春の遠足(阪神パーク)
- ・7月上旬 クラス参観・懇談・個人懇談
- ・7月20日 長居プール
- ・7月28日 夏祭り(親の会主催)
- ・9月12日 秋の遠足(花博)
- ・10月10日 父親参観
- ・10月13日 園外保育(5才児)



あさしお園

- ・10月23日 父親講座・父親参観
- ・10月28日 運動会(南田辺小)
- ・10月下旬 やきいも大会
- ・12月22日 お楽しみ会
- ・1月13日 もちつき大会
- ・3月22日 卒園式・お別れ会
- ・4月3日 入園式
- ・5月8日 春の遠足
- ・7月21日 夏祭り
- ・9月9日 父親保育体験
- ・9月15日 父親保育参観(年少組)
- ・10月14日 運動会
- ・10月24日 お別れ遠足
- ・12月9日 生活発表会
- ・12月25日 クリスマス会

ゆうなぎ園

- ・1月9日 たこあげ大会
- ・1月13日 もちつき大会
- ・3月6日 雪あそび
- ・3月23日 卒園式・お別れ会
- ・4月4日 入園式



園レクレーション委員会から

- ・11月8日 運動会(児)
- ・11月11日 父親参観(2・4才児)
- ・12月2日 生活発表会
- ・12月19日 クリスマス会



スキーツアーでのスナップ

園レク委員会では、平成2年度も各種の行事を行いました。
 ●4月21日の新入職員歓迎会は、講義室で新人13名を含む総勢44名で、いろいろな芸、出しものがあり、にぎやかに行われました。
 ●7月14日には、阿倍野の高橋ボウルで園長杯ボウリング大会を行い、30名の参加者の中から、個人賞は、医局の井上先生が、園長杯は金光・大石橋組が獲得しました。
 また、園長杯は持ちまわりで、次回イベント優勝者に渡されます。
 ●年末の打ち上げ会は、今回2回目で12月28日園内研修会終了後、講義室で行われました。一年間の仕事納めでホットとした中で、ならべたテーブルのまわりでいろんな部署の人達が、おたがいの、一年間オツカレサマをねぎらって、ワイワイ話に花が咲いていました。人数は、入れかわりたちかわりでワッカリマセー!

活伊勢海老料理に舌づつみ

職員慰安会

平成2年度の職員慰安会は、11月10日と24日の2班に分けて大阪駅前第3ビルの「中納言」で行われました。

10日は82名の参加者で梶浦理事長のあいさつ、澤常務理事による乾杯、24日は66名の参加で大下園長のあいさつ、丸山事務部長の乾杯によりそれぞれ開かれました。

今回は、久しぶりに本園、分園合同の慰安会になり、両日とも和気あいあいとした雰囲気のなか、話しがはずみ次から次と運ばれてくる伊勢海老料理に舌づつみをするち予定の2時間があっという間に過ぎてしまった賑やかな職員慰安会でした。



●スキーツアーは、1月11日夜から14日朝まで、診療部・病棟・あさしお園・ゆうなぎ園より10名が参加し野沢温泉へ。各自が思い思いのコースを雪けむりと大きな穴をあけながら大滑走!シャナイダーもどくと来い。
 今年度のイベントは以上のものですが、来年度も園レク委員会では職員がその時々で参加できるイベントを計画していく予定です。クラブ活動も各々ががんばっていますので、今後みなさんのご参加を心からお待ちしています。